

OBIRAME 26

Newsletter July.2006



オビラメの会ニュースレター26号のおもな記事
オビラメの会通常総会報告—p2／オビラメ勉強会「イトウ再導入河川での落差工改修について」—p3／再導入河川で夏のモニタリングを実施—p4

イトウ再導入河川の落差工に 魚道設置へ 「放流魚回帰前の完成目指す」 後志支庁農村振興課

オビラメの会は昨年、イトウ再導入河川でイトウの往来の障害になると考えられる落差工3基の改修を行政機関に求めましたが（オビラメニュースレター24号に詳細）、これを受けて後志支庁が、尻別川水系倶登山川流域の5基の落差工にイトウが遡上可能な魚道を、放流イトウの回帰が予想される2008年春までに設置する方向で動き出しました。オビラメの会通常総会に引き続き6月24日に開かれたオビラメ勉強会で、同支庁農村振興課の板東哲也主幹（事業計画担当）が明らかにしました。

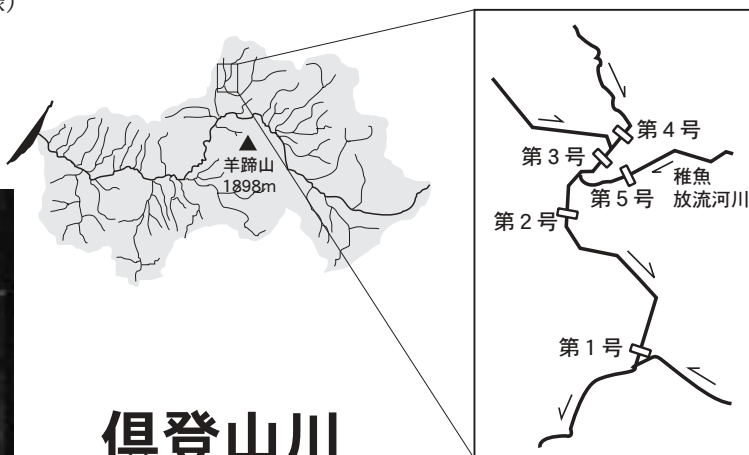
説明によれば、魚道新設を計画しているのは倶登山川本流などの落差工5基。1基あたり2000万円の建設費を見込み、総額1億円規模の事業になるといいます。費用を北海道と国とが半額ずつ負担する「道営地域用水環境整備事業（単独魚道整備）」の枠組みを活用する計画で、同課では、来年（2007年）度事業としての農水省・北海道の正式採択を目指して申請資料の整理などを急いでいます。「放流イトウが成長して戻ってくるのが、早ければ2008年春ということなので、間に合わせるために課をあげて全力で取り組んでいるところ。工事となると、とくに地元の人たちの同意やご理解も重要なので、倶知安町さんにも協力をお願いしていますし、オビラメのみなさんにも是非よろしく願います」と板東氏は話しました。

説明を受けた吉岡俊彦・オビラメの会事務局長は「われわれの要望を聞き届けていただき、大変ありがたいお話です。ただ、せっかく造るんだから、できるだけイトウが上りやすい魚道をお願いしたい。オビラメの会としても、引き続きそのような提案をしていきたいと思います。これまで放流した魚が本当に戻ってきてくれるかどうかハッキリとは分からないわけですけど、しつこく再導入を続けていきたいと思います」と伝えました。（勉強会での意見交換の様子は3ページに収録）



魚道計画について説明する板東哲也・後志支庁農村振興課主幹

後志支庁が魚道新設を計画している落差工の位置図（右）。下の写真は現在の「第2号落差工」。
（イラストと写真／平田剛士）



倶登山川 流域の5カ所で

オビラメの会2006年度通常総会報告

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」の2006年度通常総会が6月24日午後、ニセコ町民センターで開催され、新年度事業計画や予算案など全議案を全会一致で可決しました。

【会員】

会員数 71名（2006年6月24日現在）

【役員会】

代表	草島清作	倶知安町北5西34-21
副代表（事務局長兼任）	吉岡俊彦	ニセコ町富士見町65
事務局次長	鈴木則行★	ニセコ町字北栄
理事	山本 契	
理事	藤盛 聡	
理事	鈴木芳房★	
理事	玉井秀樹	
会計	阿部英治	
幹事（調査・研究）	河野裕司	
幹事（調査・研究）	城座研一	
幹事（広報・宣伝）	平田剛士	
会計監査	加藤清三★	
会計監査	山本契（理事兼任）	

★は新任

【2005年度決算】（2005年6月1日から2006年5月31日）

収入の部

郵便振替分（貯金通帳）	
内訳	金額
前年度繰越金	207,250円
当年度会費入金（42名）	84,000円
パタゴニア日本支社助成	400,000円
網走市・沼田さまよりご寄付	31,950円
愛媛県・玉井さまよりご寄付	3,000円
パタゴニア益金授与式	41,745円
小計	767,945円
北洋銀行分（預金通帳）	
前年度繰越金	662,492円
当年度会費入金（29名）	58,000円
セブン-イレブンみどりの基金助成	1,513,795円
道新野生生物基金助成	500,000円
環境再生保全機構助成（第1回）	951,000円
パタゴニア日本支社助成	1,621,645円
環境再生保全機構助成（第2回）	472,000円
利息	20円
現金	114,471円
小計	5,893,426円
収入合計（A）	6,661,371円

支出の部

種別	金額
会費収入より拠出	820,631円
当年度会費入金（42名）	84,000円
環機地（②）より拠出	472,998円
道新野生生物基金より拠出	623,919円
みどりの基金より拠出	739,596円
みどりの基金（返金）	774,199円
支出合計（B）	4,383,205円

次期繰越金（A-B） 2,319,333円



新年度事業を話し合う草島会長（中央）らオビラメの会会員たち（2006年6月24日、ニセコ町民センター。撮影／平田剛士）

【2006年度予算】2006年6月1日～2007年5月31日

（収入の部）

費目	内訳	金額
前期繰越金		2,319,333円
助成金	地球環境基金	1,000,000円
会費	60名	120,000円
合計		3,439,333円

（支出の部）

費目	内訳	金額
事業費 A	再導入事業、イトウ飼育管理事業、地域広報活動強化、その他各プロジェクト活動費、オビラメジュニアプロジェクト事業強化	1,779,333円
事業費 B	（地球環境基金助成金分）稚魚・親魚飼育にかかる謝金・賃金	1,000,000円（360,000円）
	旅費	（40,000円）
	モニタリング物品資材購入費	（143,000円）
	飼育池維持管理にかかる借損料・役務費	（457,000円）
会議費	オビラメ勉強会（4～5回）、オビラメミニフォーラム（札幌圏）、役員会・総会、交通費など	320,000円
通信費	ニューズレター製作発送、インターネットサーバー、連絡用郵便代など	150,000円
事務費	事務用品、コピー代金など	70,000円
予備費		120,000円
次期繰越金		0円
合計		3,439,333円

イトウ再導入河川での 落差工改修について

オビラメ
勉強会

後志支庁農村振興課の板東哲也主幹の説明（1ページ参照）に引き続き、活発な意見交換がおこなわれました。ダイジェストでお伝えします。

平田剛士会員

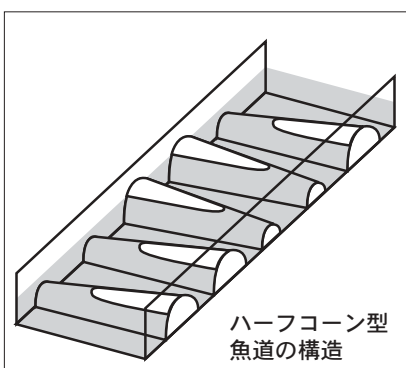
オビラメの会は、魚が「泳ぎ上り」できる「落差工の切り下げ」を提案していますが、魚道のタイプはどんなふうによ？

板東主幹

まだ白紙です。俱登山川の落差工の管理は小樽土木現業所さんが担当していて、われわれ農村振興課の好きなように、とはいきません。農水省とも相談しつつ案を出して、土現さんと協議していくことになります。ただ「切り下げ」の場合、堤体をハツることになりますから……。

齋藤清作・後志支庁農村振興課農村整備係長

これまで安定していた構造物がもし不安定になるような危惧があると、土現さんはOKとは言わないかも知れません。この事業は「イトウのための工事」ということになります。



これまであまり例がなく、今後、注目度は高まるでしょう。すると、かえって事故が恐いのです。とはいえ、本事業は「魚をはぐくむ流れ事業」という位置づけなので、レッドリスト記載種を対象に、それらが全部上、落差工を越えて上流に上れるような魚道にします。



板東哲也氏（左）の説明に聞き入る勉強会参加者たち

岩瀬晴夫会員

行政機関とオビラメの会が協調しながらゆっくり進めるのがいいと思います。小樽土現さんが初めて今年、共和町内で「切り下げ」を始めていますが、そこにたどりつくまでとにかく「慎重に慎重に」とすごく大変でした。確かに、別の部署がヨソさまの構造物には傷つけられないでしょうから、俱登山川の今回の5基については、「切り下げ」にこだわらないで、スタンダードな魚道でいいと思います。そのうえで、魚道タイプとしては、「ハーフコーン型」なら、イトウもほかの魚種も上りやすくなるでしょう。泳ぎ上りとジャンプ方式のチャンポン型です。いま、農水省も積極的にこのタイプをやっていると思うので、理解を得られると思います。

（6月24日、ニセコ町民センター。報告／平田剛士）

☆通常総会での質疑応答から☆

Q 新年度計画のうち、ジュニアプロジェクトの強化案について説明してください。

A（吉岡俊彦事務局長） 以前からの悩みのタネなのですが、会員数約90人と増えてきたとはいえ、札幌や道外の人に比べて、地元に住んでいる会員が少なく、イトウの飼育管理などの人手が足りない状況です。いざというとき、すぐに集まれるのは3人か4人しかいないんですから。ジュニア会を活性化させて子どもをフィールドに連れ出すようにすれば、その親たちも一緒に来てくれると思うのです。とにかく地域の理解をもらわないとイトウの再導入なんて実現できません。悪い意味ではなく、子どもを利用しながら親たちも巻き込んで、さらに行政も一緒に考える、というふうにもっていきたいんです。その意味で、ジュニアのプロジェクトを強化していきたいと考えています。

Q 新年度の放流魚モニタリングの計画はどうなっていますか？

A（大光明宏武さん＝酪農学園大学） 一昨年と昨年にイトウ稚魚を放流した俱登山川水系の河川で、引き続きモニタリングを継続したいと考えています。今のところ、昨年

と同様に6月、9月、11月に、電気漁具を用いた捕獲調査を計画しています。電気漁具による捕獲調査の特別許可はすでに道知事から受けています。放流イトウが下流側に分散し始めているとも考えられるので、今年からは新たに、俱登山川本流でも調査する予定です。まず7月後半に俱登山川本流域をボートで下るなどして下見してモニタリング区間を設定してから、本格的な調査に移りたいと考えています。

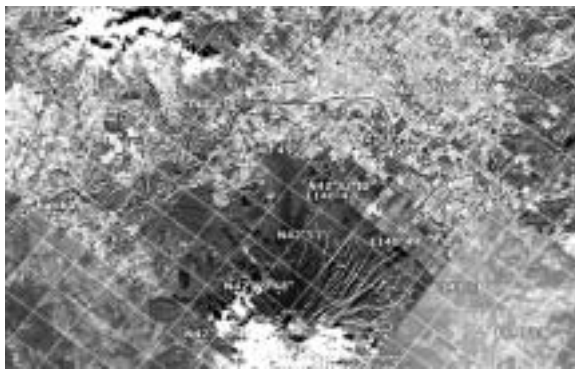
A（早坂洋介さん＝北海道工業大学） 稚魚放流河川で去年、木製パレットを利用したカパー（隠れ家）設置実験をやったのですが、春の増水などで破壊されてひどい状況で、同じ実験の継続は無理かもしれません。とりあえず撤去します。いま別の方向の調査を考えていて、それは俱登山川流域全域で、GIS（全地球測位システム）を使って環境状態を調べるといいます。河畔林の分布などを調べて、今後復元すべき場所を抽出していく、というようなことが出来るのではないかと考えています。

尻別川条例

尻別川流域の7町村（蘭越町・ニセコ町・真狩村・留寿都村・喜茂別町・京極町・倶知安町）でつくる「尻別川連絡協議会」が河川環境保全のための統一条例案を策定したのに合わせ、加盟各自治体は7月までに、それぞれ共通の「河川環境の保全に関する条例」を制定・施行しました。NPO法人しりべつりバーネット（牧野純二理事長）の10年越しの要望による成果で、同ネットの原案策定作業にはオビラメの会も協力してきました。

条例は「この美しく豊かな河川環境を貴重な共有財産として守り、育むとともに、将来の世代がその恵沢を享受できるよう大切に引き継ぐ使命があり（略）尻別川水系の川の美しさと豊かさを守る」と宣言。行政機関は「河川環境の保全及び河川の健全利用のため、総合的な施策の実施に努めなければならない」（第4条）、釣り人やラフティング業者など含む利用者・事業者は「河川を環境を損なわないよう、自己の責任と負担において、必要な措置を講ずる」（第6条）と定めています。

残念ながら、尻別川のシンボルと言うべきイトウ保護への言及はありません。とはいえ、イトウのように広大な行動圏を持つ生物の保護管理のためには、流域を丸ごと視野に置くことが不可欠。全町村が足並みをそろえて同じ条例を持った意味は小さくないでしょう。（平田剛士）



尻別川と羊蹄山（Google Earthより）

放流魚調査

当会がイトウ再導入を試みている尻別川水系倶知安川流域で7月15日から、会員らによる夏のモニタリング（追跡調査）が始まりました。対象は、2004年春に人工採卵・授精によって誕生し、同年秋と翌05年春に再導入された魚たち。付近でクマが目撃され、緊張の中での調査でしたが、リーダーの大光明（おおみ）宏武さんが、放流地点の上下流に設けた調査区間を電気式漁具を使って丹念に探ると、標識魚たちが次々見つかりました。

「孵化から丸2年経ち、そろそろ本流方面に移動していく時期ですが、住み心地がいいせいか、予想以上にこの川にとどまっているなあ、という印象です」と大光明さん。今回捕獲したイトウ計14匹は、体長20cm前後と順調な生育ぶりで、「この調子なら、いずれ何匹かは無事親魚になってここへ回帰してくるはず」と期待を膨らませています。

大宮さんはこのモニタリング調査を、回帰親魚がここで繁殖に成功するのを見届けるまで続ける計画です。

データをメモする大光明さん（上、7月17日）
捕獲されたイトウ幼魚。
測定の後、速やかに流れに戻された（下、同）
photo / Hirata Tsuyoshi



「オビラメの会」は新入会を歓迎します

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」は、会費と寄付金などで運営される市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費は2000円です。郵便局の振り込み用紙に住所、氏名、電話番号を明記のうえ、入会希望と書き添えてお振り込み下さい（手数料はご負担願います）。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末（5月）までです。概ねひと月以内にニューズレターをお届けします。

■年会費2,000円
■郵便振替
02720-9-11016
■加入者名
「オビラメの会」

標識オビラメ見つけたら
☎0136-44-2472
オビラメ事務局マデ

ご支援ありがとうございます

尻別川の未来を考えるオビラメの会は、会員のみならずよりの会費と、寄付金、および地球環境基金、パタゴニア日本支社の助成金を受けて活動しています。



patagonia
committed to the future

オビラメの会ニューズレター 第26号（2006年7月発行）
OBIRAME Newsletter No.26, July 2006

■発行■ 尻別川の未来を考えるオビラメの会
■編集■ 平田剛士
■印刷■ （株）須田製版 （北海道滝川市栄町4-4-1）
■発送■ 吉岡俊彦
■郵便振替■ 02720-9-11016 加入者名「オビラメの会」
■オビラメの会事務局■

北海道虻田郡ニセコ町富士見65「ライズ」内
吉岡俊彦方 〒048-1501 TEL/FAX 0136-44-2472

copyright 2001-2006 Obirame Restoration Group
<http://homepage3.nifty.com/huchen/Obirame/index.html>

水と空気、みどりの大自然
ニセコが好きだ
楽しんだあとは川を語ろう

御食事処・酒房

ライズ

ニセコ町富士見65 TEL/FAX 44-2472
Email / itou110@estate.ocn.ne.jp